

これ、私が作った曲だよ



聴かせて！

オリジナル曲の発表

自分の音楽を、世界に届けよう



この教材の使い方

1

声と体で感じる

音楽は、歌ったり手をたたいたりするほど身につきます。気になったところは、何度でも声に出してみましょう。

2

本物の音を聴く

この教材に出てくる曲や楽器は、音源や動画でも聴いてみましょう。耳で知ると、理解がぐっと深まります。

3

「やってみよう」は手と体で

答えは30ページにあります。正解がひとつではない問題もあります。自分の感じ方を大切にしましょう。



Ken (ケン)

音楽が好きな中学生。ギターを始めたばかり。



Emma (エマ)

カナダから来た留学生。ピアノが得意。

もくじ

曲を仕上げる	3～6
発表の準備	7～11
本番と感想	12～15
次への一歩	16～19
練習しよう	20～24
ふり回り	25～30

発表する曲を決めることが、最初の一步です。

発表するオリジナル曲は、完成していなくても、今の自分の精一杯でかまいません。



- これまでつくった曲の中から、いちばん発表したい曲をえらびましょう。
- 短い曲でも、心を込めてつくった曲なら、十分に発表する価値があります。

1. 発表したいオリジナル曲を1つ決めて書こう。

発表前に、曲を最後まで仕上げましょう。

- メロディ・リズム・歌詞など、気になる部分を見直しましょう。
- 何度も演奏して、通して聴いたときの流れを確認しましょう。
- 完璧を目指しすぎず、「今の自分の精一杯」で十分です。

1. 曲の中で、まだ迷っている部分を書こう。

書いて覚えよう

演奏のアレンジ

演奏のしかたを工夫すると、曲の印象が変わります。

ポイント

- 伴奏をつける、楽器を変えるなど、アレンジで曲の雰囲気が変わります。
- シンプルな演奏でも、気持ちがこもっていれば十分に伝わります。
- 無理に凝ったアレンジをせず、自分にできる範囲で工夫しましょう。

やってみよう

1. 曲に加えてみたいアレンジのアイデアを1つ書こう。

書いて覚えよう

楽譜を整える・歌詞カードをつくる

楽譜や歌詞カードを整えると、伝わりやすくなります。

曲名

作った人

楽譜・歌詞の形

伝えたいひとこと

Ken の例

曲名 わたしの空／作った人 Ken／楽譜・歌詞の形 手書きの歌詞カード／伝えたいひとこと 空を見上げたときの気持ちを歌にしました

ポイント

- 楽譜や歌詞カードがあると、聴く人にも演奏する仲間にも伝わりやすくなります。
- 手書きでもデータでも、見やすく整えることを意識しましょう。

書いて覚えよう

曲を発表する前の短い紹介が、聴く人の心を開きます。

- 曲をつくったきっかけや、こめた気持ちを短く伝えましょう。
- 長く話すぎず、1～2文にまとめると聴きやすくなります。
- 紹介があるので、聴く人は曲をより深く味わえます。

1. 自分の曲の紹介文を、短く書いてみよう。

発表する場所によって、届け方が変わります。

いちばん身近な発表の場

気軽に聴いてもらえる場

クラスのみんなに届ける場

目的をもって集まった場

地域の人に届ける場

遠くの人にも届けられる場

- 場所によって、聴いてくれる人の数や関係もちがいます。
- まずは身近な場所から、発表の経験を積んでいきましょう。

オンラインで発表する

オンラインでの発表には、独自の良さと注意点があります。

ポイント

- 遠くにいる人にも、いつでも届けられるのがオンラインの良さです。
- 録音・録画の質にも気を配ると、より伝わりやすくなります。
- 公開の範囲（家族だけ・限られた仲間だけなど）を最初に決めましょう。

やってみよう

1. オンラインで発表するなら、どんな範囲の人に届けたいですか。

書いて覚えよう

オンラインに投稿するときは、いくつかの注意が必要です。

未成年のうちは、投稿の前に必ず保護者や先生に確認しましょう。

- 楽しく安全に発表するために、事前の確認とルールを守ることが大切です。
- 一度公開したものは、完全に消すのが難しいこともあると知っておきましょう。

- 静かな場所を選ぶと、演奏がよりきれいに録れます。
- 1回で完璧を目指さず、何回か録って一番良いものを選びましょう。
- 録る前に、機器や電池・容量を確認しておくとう安心です。

1. 録音・録画をする場所と時間を決めよう。

- これまでの教材で学んだ、緊張との付き合い方や表現の工夫を思い出しましょう。
- 止まってしまっても、最後まで演奏を続けることを大切にしましょう。
- 自分がつくった曲を、自分らしく届けることがいちばんの目標です。

1. 本番で意識したいことを1つ書こう。

もらった感想を、次の作品づくりにいかしましょう。

- 聴いてくれた人の感想は、自分では気づけない視点を教えてくれます。
- うれしい感想も、改善のヒントになる感想も、どちらも大切な財産です。
- 感想を受け取ったら、次の作品にどうにかせるか考えてみましょう。

やってみよう

1. もらった感想を1つ書き、そこから気づいたことを書こう。

書いて覚えよう

作品の記録

つくった作品は、記録として残しておきましょう。

曲名

作った日

発表した場所

もらった感想

Emma の例

曲名 雨の日のうた／作った日 6月／発表した場所 クラス発表／もらった感想 メロディがやさしいね

ポイント

- 記録を残しておく、自分の成長をあとから見返すことができます。
- 楽譜や録音を、なくさないよう整理して保管しましょう。

書いて覚えよう

作品をつくった人が持つ、大切に守られるべき権利

自分で考え、つくり出したもの

ポイント

- 自分がつくった曲には、自分の著作権があります。
- 他の人の曲を発表に使うときは、その曲の著作権も大切にしましょう。
- わからないときは、先生や大人に確認する習慣をつけましょう。

書いて覚えよう



みんなでオリジナル曲を持ち寄って、発表会をひらいてみようよ。

Emma

いいね！ おたがいの曲を聴き合うと、新しい発見がありそう。

発表後のふり返り

発表を終えたら、ふり返りの時間を取りましょう。

発表した作品

うまくいったこと

次に直したいこと

次に挑戦したいこと

Ken の例

発表した作品 わたしの空／うまくいったこと 最後まで演奏できた／次に直したいこと 曲紹介をもう少し短く／次に挑戦したいこと 新しい曲づくり

ポイント

- 発表そのものと同じくらい、ふり返る時間も大切です。

書いて覚えよう

次の作品へ

1つの発表が、次の作品づくりへの入り口になります。

ポイント

- 発表を通して得た経験や感想は、次の作品づくりの材料になります。
- うまいかなかった部分も、次に生かせるヒントです。
- つくり続けることで、あなたらしい表現がどんどん育っていきます。

やってみよう

1. 次につくってみたい作品のイメージを書こう。

書いて覚えよう

聴いてくらべよう

自分の作品を仕上げの前後で聴きくらべてみよう。

くらべるところ	仕上げ前	仕上げ後
メロディ	気になる部分がある	なめらかに整った
演奏	止まることがある	最後まで通せる
伝わり方	漠然としている	気持ちがはっきりする

ポイント

- 仕上げの前後で録音を聴きくらべると、成長がよくわかります。
- 変わった点を言葉にすると、次の作品づくりにも役立ちます。

やってみよう

1. 仕上げの前後を聴きくらべて、変わった点を書こう。

書いて覚えよう

実際にやってみよう・ペアやグループで練習しよう

曲紹介から感想のやりとりまで、通して練習してみよう。

A (曲紹介をして) この曲は、～な気持ちでつくりました

B (聴いて) すてきだね、とくに～の部分が良かった

A (お礼を言う)

B (次を提案する) 今度、発表会をひらこうよ

ポイント

- 曲紹介から演奏、感想のやりとりまでを、通して練習してみましょう。
- おたがいの作品を聴き合うと、新しい発見や刺激が生まれます。

やってみよう

1. ペアやグループで、おたがいの作品を紹介し合おう。

書いて覚えよう

よくあるつまずき・上達のコツ

つまずきを知ると、対策が立てやすくなります。

つまずき

よくあること

いつまでも仕上がらない

完璧を目指しすぎる

発表するのがこわい

評価されることへの不安

感想をうまく受け取れない

否定と感じてしまう

コツ

こうしてみよう

区切りをつけて仕上げる

完成の期限を決める

小さな場から発表する

少しずつ慣れる

感想は「材料」と考える

次の作品のヒントに変える

ポイント

- 完璧を目指しすぎず、区切りをつけて前に進むことが大切です。
- 感想は、あなた自身への評価ではなく、次への材料です。

やってみよう

1. あなたが発表に向けていちばん不安なことは？ _____

書いて覚えよう

用語をおさらい

この教材で出てきた言葉を確認しよう。

曲づくりの仕上げ

☐ アレンジ

演奏のしかたの工夫

☐ 楽譜・歌詞カード

演奏や歌詞を伝える形

発表の準備

☐ 曲紹介

曲を伝える短い紹介

☐ 録音・録画

演奏を記録する準備

発表するとき

☐ 投稿のルール

オンラインで発表するときの決まり

☐ 著作権

作品をつくった人が持つ権利

発表のあと

☐ 感想を生かす

もらった感想を次に生かすこと

☐ 作品の記録

つくった作品を残しておくこと

ワンポイント 覚えた言葉に✓をつけよう。言葉を知ると、発表の準備を人にも説明しやすくなります。

書いて覚えよう

家でできる練習

毎日の中で、少しずつ作品と向き合おう。

朝

つくった曲を1回演奏してみる

練習中

気になる部分を少しずつ直す

家族に

曲紹介をしてから聴いてもらう

録音

演奏を録って聴き返す

夜

次につくりたい曲のメモを書く

週末

家族や友だちに感想を聞く

ポイント

- 毎日の中で、少しずつ作品と向き合う時間をつくりましょう。

書いて覚えよう

発表してみよう・感想を書こう

学んだことを、実際の発表でためしてみよう。

発表した作品

発表した場所

工夫したこと

もらった感想

Ken の例

発表した作品 わたしの空／発表した場所 クラス発表／工夫したこと 曲紹介を短くまとめた／もらった感想 気持ちが伝わったよ

感想を3文で書こう

① 今回発表したのは、～という曲です。② 工夫したのは、～です。③ もらった感想を聞いて、～と感じました。

書いて覚えよう

もっと知りたい人へ・次のステップ

作品づくりと発表は、これからも続けていきます。

もっと知りたい人へ

他の人の作品を たくさん聴いてみる

先生に
曲づくりのアドバイスをもらう

著作権について
もう少し詳しく調べる

次のステップ

音楽仲間をつくる

一緒に作品をつくる仲間を広げる

教える・伝える

音楽を続けるコツ

つくり続けるための工夫

ポイント

- この教材の次は「音楽仲間をつくる」。作品を分かち合える仲間を広げていきましょう。

書いて覚えよう

オリジナル曲の発表チャレンジ

教室の外でも、作品づくりと発表はすぐに始められます。

仕上げよう

つくった曲を**最後まで**演奏できるよう
にする

紹介しよう

短い**曲紹介**を考える

届けよう

身近な人に**発表**して感想をもらう

こたえ

L19 (例) 自分の作品を届ける経験／楽譜や紹介の準備／次につ
くりたい作品

L26 アレンジ→イ 著作権→ウ 曲紹介→オ 投稿のルール→ア 作品
の記録→エ 2. 保護者や先生に確認する / 次の作品に生かす /
区切りをつける

L33 (例) 曲を仕上げ、紹介を考え、安全なルールを守って届け
ること。

書いて覚えよう

オリジナル曲の発表 (Season 10 | No.96)

発行：一般社団法人文化芸術支援協会

この教材の著作権は一般社団法人文化芸術支援協会に帰属します。個人の学習および家庭内での利用に限り、閲覧・保存・印刷ができません。

有料の講座・塾・研修での使用、販売・再配布、改変しての公開、生成AIへの入力などの商用利用は禁止しています。

くわしくは当協会ウェブサイトの「ウェブサイト利用規約」をご覧ください。